

SWSD2014 メルボルン大会に参加して

黒田研二（関西大学人間健康学部）

SWSD2014 メルボルン大会のメインテーマは **Promoting Social and Economic Equality** であった。テーマに関連する全体セッションでの講演に、私はとくに関心をもって出席した。印象に残ったものからいくつかを紹介する。

Fostering social and economic initiatives that promote security and protection と題する ILO 副議長 **Greg Vines** 氏の講演は、ILO 加盟 168 か国の社会保障政策の現状を世界地図上に落としながら、世界人口の 7 割が適切な社会保障政策の範囲外にあることを示してくれた。オーストリアから来た **Herbert Paulichin** 氏の講演 **Addressing health inequalities and disadvantage for individuals and communities** はジェーンアダムスやメアリーリッチモンドの業績にふれ、100 年余のソーシャルワークの歴史において保健や医療との関係が強かったことを示すとともに、社会的・経済的格差が健康の不平等と密接に関連していることをわかりやすく説明した。

本大会に出席しての全体的な感想だが、経済的グローバル化が進むとともに、世界的規模でみた貧富の格差も広がっている。ソーシャルワーカーおよびその教育者の世界大会である本大会は、こうしたグローバルな動向に対して、ソーシャルワークの目標である「基本的人権と社会正義」を掲げて対抗しようとしている。

ひとつの国の中でも **Equality** は拡大する傾向にある。大会主催国オーストラリアでは、先住民であるアボリジニーへの差別的政策が長らく続いた。今、その政策を改め反省期にある。本大会のシンポジウムではアボリジニーの運動のリーダー達が登壇し、不平等に対抗する動きが紹介され、議論された。

SWSD2014 への参加は、ソーシャルワークが何を指そうとしているのか、世界的動向も踏まえて何を指さなければならないのかを考える良い機会となった。2年後にはソウルで世界大会が開催される。日本からも多くの人々が参加することを期待したい。